

平取町国民健康保険病院経営強化プラン概要

計画策定の背景、目的

総務省は、病院事業を設置する地方公共団体に対し、病院事業の経営強化に総合的に取り組むための指針として、令和4年3月に「公立病院経営強化ガイドライン」を示しました。

各地方公共団体や公立病院は、地域の実情を踏まえ、ガイドラインに沿った経営強化プランを策定し主体的に実施することが期待されています。

ガイドラインでは次の内容を記載した計画を策定し、経営強化に取り組むよう要請しています。

- (1) 役割・機能の最適化と連携の強化
- (2) 医師・看護師等の確保と働き方改革
- (3) 経営形態の見直し
- (4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組
- (5) 施設・設備の最適化
- (6) 経営の効率化

当院においても、持続可能な地域医療提供体制を確保するため、役割・機能の最適化・連携強化の取組みについて、日高地域医療圏構想等を踏まえ、『平取町国民健康保険病院経営強化プラン』を策定します。

経営強化プランの計画期間

令和6年度から令和9年度の4年間

平取町国民健康保険病院が目指す姿

平取町国保病院は、一般急性期～回復期～慢性期の幅広い病床機能に対応しながら、日常医療を担う「かかりつけ医」の機能を基本に、救急指定病院として一次救急に加え、二次医療圏における役割を担い、定期的な予防接種・各種健康診断の実施等を通じて町民の健康保持に努めつつ、訪問診療・訪問看護の提供を始めとした地域包括ケアシステム構築の推進し、地域が必要とする地域医療の展開を図ってまいります。

病床機能、病床数の見直し

日高西部地区医療圏における将来人口推計では人口減少が進み、患者数の減少が見込まれます。当院は入院患者においても急性期から慢性期までとさまざまな病状に対応して診療を行っておりますが、医師の方針(適切な医療提供)や国の在宅医療を推進する動きを注視しながら、今後3年ほどは現在の病床区分での運営をしつつ、病床機能と病床数のあり方を検討していきます。

役割・機能の最適化と連携の強化

平取町国保病院は、一般急性期～回復期～慢性期の幅広い病床機能に対応しながら、地域の「かかりつけ医」として、「訪問診療」、「訪問看護」、「退院支援」等の在宅医療について今後は対応を強化していきます。

地域住民が住み慣れた場所で自分らしい生活を人生の最期まで安心して送ることを目指し、平取町国民健康保険病院が地域包括ケアシステムの医療における中核施設として、従来からの「かかりつけ病院」の機能を充実させるとともに、町内の特別養護老人ホーム、苫小牧市内の急性期医療機関や近隣の介護老人福祉施設等との連携、在宅医療の推進および医療・介護・保健・福祉等の連携を促進します。

医師・看護師等の医療人材の確保と働き方改革への対応

病院事業を行ううえで、医療人材の確保は欠かすことができないものです。

令和6年4月から医師の時間外労働の上限規制が適用されることから、常勤医の負担軽減に取り組むとともに、引き続き大学病院からの医師派遣を要請し、安定的な医師の確保に努めます。また、看護師等についても、関係機関への働きかけを強化し人材確保に取り組めます。

経営形態の見直し

当院においても、診療体制のあり方や収益性について協議を重ね、平成27年度には、一般病棟と療養病棟の2病棟71床から一般病棟のみとする、42床へダウンサイジングを図ったことで、持続可能な地域医療を提供できる体制を構築しました。代替となる医療機関が町内に無いことや、不採算であっても救急医療など持続的に必要な医療、政策的な医療提供が必要であることから、地方公営企業法の一部適用を採用し、今後も、継続していく方針であります。

新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組

これまでの感染対策を継続するとともに、院内感染防止対策マニュアルの随時見直しを行い、国や北海道とも連携して、随時、感染防止衣等のストックに努め、切れ目のない感染防止対策と迅速な治療、医療体制の継続に努めます。

施設・設備の最適化

平取町国保病院は、平成27年度より改築に係る事業が始まり、令和元年7月1日より新病院での診療を開始しました。

現時点では新築・建替・大規模改修の予定はありませんが、計画的な整備・点検・保守及び修繕・更新等を行い、施設・設備等の長寿命化を図ってまいります。

経営の効率化等

経営強化プラン対象期間中の次年度における収支計画等については、各種取組の実施を前提として、経営指標に係る数値目標及び収支計画を設定します。

収支計画については、診療報酬の改定等の経営環境の変化により影響を受けるため、プラン策定後においても状況変化を踏まえ必要な見直しを行っていきます。